



学校便り

ホームページ <http://kanai-es.sado.ed.jp> Eメール kanai-es@sado.ed.jp
佐渡市立金井小学校 平成29年2月24日 第11号

学びを今後の成長に生かす

校長 羽二生 裕

昔から「二月は逃げて、三月は去っていく」という言葉があります。今年度も残り少なくなりました。子どもたちは、金井小の学校文集『わかば』第4号に、この一年間の家族との思い出や自分の心に残った学校生活のことなどを書きました。私も子どもたちの原稿を読ませていただきました。各学年・学級の文集を読んでいくと「子どもってここまでけなげに自分で自分のことを考えているのか、すごいなあー。」と、嬉しくも感心させられる作品がいくつも 있었습니다。それらの中から、四年生の子どもが書いた作品を紹介します。『算数で分かったあきらめない気持ち』という題です。表記については、子どもの書いたものをそのまま載せます。

ぼくは、今まですぐに「だめだ。できない。」と思って、あきらめることがありました。でも、四年生の算数のじゅ業で、その考え方が変わりました。

四年生の算数は、問題がむずかしくなりました。二けたでわるわり算の学習の時、先生にしつ問をして、だんだん分かるようになってきた矢先、ぼくは学校を休みました。学校に来ると、みんながしているわり算のやり方が、全く分からなくなっていました。みんなに追いつけないかもしれないと心配になりました。でも、無理だと思う気持ちに負けないで、一生けん命に友達や先生に聞きました。すると、最後の練習と力だめしの問題が、何もしつ問をしないですらすらととけたのです。その時から、ぼくは、つらい時でもあきらめなければ、必ずできると考えるようになりました。



私はこの作文を読んで感動しました。まず、自分から分かろうとした努力です。次に、自分がつらい時でも、あきらめなければ必ずできるという体験をしたことです。学校での学びの体験を自分のこれからの生活に生かしているところです。学校や家庭での学びが、自分のこれからの人生に生かされてこそ「**本当の学び（学びの連続）**」となります。学校や家庭での学び、体験がこれからの子どもたちの成長につながります。教師になった頃、国語教育で「生活綴方教育」という戦前戦後の日本の国語教育の流れを書物で読んだことがあります。「生活綴方教育」とは、様々な生活環境で生きている子どもたちが、学校生活や家庭での生活等を掘り下げて考え、書くことを通して自分自身の思いや考えを表現する教育運動です。このような流れのもとに、きっと学校文集があります。

旧金井小学校の学校文集「わかあゆ」は、昭和38年3月「復刊第一号」から第51号まで発刊されました。金井吉井小学校の学校文集「よしい」は、昭和45年3月「第一号」から第43号まで発刊されました。新生・金井小となり、学校文集は「わかば」となりました。おそらく、戦後の「生活綴方教育」の流れをくんでいるものと思われます。やはり書くことは、自分を見つめるとともに学習への意欲にもつながります。また、新しい学力（思考力・判断力・表現力）に通じる力となります。是非、子どもたちの書いた学校文集をじっくりと読んでいただきたいと思います。

学校では今、子どもたちは、「鼓隊引継式」や「6年生を送る会」に向けての練習や準備に忙しい毎日を送っています。学校の中には、委員会活動や登校班、清掃、校外子ども会など、上級生から下級生に引き継ぐ多くの活動があります。

3月3日（金）の午後、「鼓隊引継式」「6年生を送る会」が金井小体育館で行われます。当日、子どもたちの生き生きとした姿や成長した各学年の様子などを、御覧になっていただくと有り難いです。多くの保護者の皆様や地域の皆様方の御来校を心よりお待ちしております。